

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀(りんどう)1階		
所在地	大阪府貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成28年11月27日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣とのかかわりを大切にして、近所の魚屋さんへの買い物や幼稚園の園児達との交流会など地域の方とのふれあいを大事にしております。ホーム内では、ご入居者一人ひとりに役割を持っていただき楽しく生活して頂けるように支援したり、季節ごとに恒例の行事を取り入れて皆で季節の移り変わりを感じていただくようスタッフ一同心がけております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「思いやり・笑顔を大切に」と理念に掲げ、職員は常に利用者中心に考え意見を出し合い利用者の笑顔ある暮らしに向けて支援しています。職員間の連携や意見を言いやすい雰囲気作りを大切にし、毎月会議の前にテーマを出し合い欠席する職員にも意見を出せるように工夫したり、日常的にも業務改善等の意見が出された時は時間を作りカンファレンスを行うこともあります。利用者の希望に添い毎日の散歩や入浴ができるように支援したり、個々のできることを大切に食事作りや掃除等日常生活の中で力を発揮してもらうことで利用者のやりがいや楽しみ事になっています。家族との関係も良好で面会に来やすい雰囲気を作り、来訪時にはコミュニケーションを図りながら意見や要望を聞くように努めたり、外出や重度化した場合には協力を得ることその人らしい暮らしに繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り時に社是と経営理念を唱和し実践につなげている	利用者の笑顔ある暮らしに向けて「思いやり・笑顔を大切に」と掲げられた理念をもとに、毎月目標を職員間で話し合い作成しています。毎日申し送り時に理念の唱和を行い、日誌に目標を記載し意識した実践に繋げ、毎月会議で振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回近所の魚屋さんにご利用者と一緒に買い物に出かけている。お地藏さんへのお参りも毎日の日課になっている	自治会に加入し回覧板や掲示板で地域の行事等を知り、ふれあい喫茶や祭り等に参加しています。定期的に幼稚園児との交流がありクリスマスにはプレゼントを持って来訪があったり、傾聴やフラワーアレンジメントのボランティアを受け入れています。日々の散歩や買い物、神社の催事など、地域に出かけるよう心がけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貝塚市介護者家族の会(貝塚市社協開催)に参加し、話し合いの機会を設けて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度ホームにて開催し、市の担当者や民生委員、地域包括やご家族等参加のもと活動状況を報告し、意見や要望をお聞きしたり問題点などを話し合っている	運営推進会議は年に6回家族や市職員、地域包括支援センター職員、時折民生委員や自治会長等の参加を得て実施しています。利用者の状況や行事、健康セミナー等の事業所としての取り組みを報告し、意見交換をしています。ヒヤリハット事例が少ないとの指摘を受け、職員に注意喚起し重大事故に繋がらないよう取り組むなど運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、貝塚市グループホーム連絡会で相談や研修を行っている	運営推進会議に市職員の参加を得ており、事業所の状況を知ってもらえ、手続きや相談事などで役所を訪問した際にも話し合える良好な関係を築いています。また2か月毎に役所でグループホーム連絡会が行われ、アドバイスをもらったり相談できる機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で身体拘束について研修を行っている。玄関の施錠については、夜間以外は常に開いている	身体拘束についての研修を年に一度は行い、接遇研修時にも言葉による行動の制止について職員が理解できるよう取り組んでいます。玄関やフロア入り口の施錠は行わず、利用者が自由に安全に過ごせるように見守ったり支援をしています。外に行きたい様子が見られた時には一緒に散歩に行くこともあります。	

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待について研修を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて制度を理解する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書に沿って相手が納得されるまで、わかりやすく説明するように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として顧客満足度調査を行ったり、管理者を苦情等の窓口として常に話し易い環境づくりに心がけている	日々の関わりの中で利用者の意見や要望を聞いています。家族の面会時にはコミュニケーションを図るよう努め、来訪しやすく意見を言いやすい雰囲気作りを心がけています。また、運営推進会議への出席、顧客満足度調査などでも意見や要望を聞いています。得られた意見は業務ミーティングの中で具体的な対応を検討し運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションを図り、毎月の会議等で意見交換を行っている	毎月行う会議の前にテーマを出し合い、欠席する職員にも意見を出せるように工夫し、また日常的にも業務改善等の意見が出されており、職員は意見を出し合いながらサービス向上に繋がっています。環境美化やアクティビティ等の委員会活動でも職員が主体となって意見を出したり、年に1~2回個人面談も行い意見や思い等を言える機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けている		

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントをおこなっている。ホームの見学等で確認していた		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいたりセンター方式を活用したりして、ご家族からご本人の生活状況や要望などの把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ず行っている。場合によっては他のサービスや事業所を紹介することも行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や掃除、洗濯や料理等を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族とも信頼関係を築く努力をしている。ご利用者がご家族と過ごす時間を大切に考えて支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談しながら、入居前に馴染みにされていた場所や知合いの方との交流を支援している	友人や親せきなど馴染みの方の来訪時にはリビングか居室の好みの場所を選んでもらい、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮しています。家族の協力を得て墓参りや法事に出かける方もおり、外出準備等の支援をしています。また、年賀状などが届いた際には返信できるように代筆や投函等の支援をしています。	

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるようにリビングで座るとききの席の位置を考えたり、共通の話題を提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、ご家族にいつでも相談に応じること伝えてる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族から、なるべくたくさんの情報をお聞きしてケアに活かせるように努力している	入居前の担当ケアマネジャーや訪問看護師等から情報をもらったり、本人や家族と面談を行い思いや意向の把握に努めています。入居後に利用者とのコミュニケーションや様子、表情を観て思いの把握に繋げ、把握の困難な場合は日々時間を作りカンファレンスをしたり、会議で利用者の立場に立って検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時ケアマネジャーなどから、ご本人の了解の上情報を提供してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成の前に、必ずカンファレンスやモニタリングを行っており、ご家族にも説明し納得の上サインをいただいている	アセスメントのもとサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。6か月毎にモニタリングと評価、再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き介護計画を見直しています。担当者会議には家族の参加を依頼し出席を得られることもあり、会議前に医師や看護師の意見を聞いておき、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表や個別の介護記録に記入して		

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会長、老人会の方々に協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の連携の取れたかかりつけ医があり、適切な医療が受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続できることを入居時に説明してありますが、全員が協力医の往診を受けています。歯科や専門医への受診は家族が付き添い、検査結果を持参してもらったり家族を通して情報交換をしています。協力医には月に2回往診してもらい、24時間連絡でき指示を仰ぐこともあります。週に1度訪問看護師による健康管理を受け、アドバイスをもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算にて訪問看護と契約をして体調管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者及び主治医、ご家族と連携を取り退院にむけた支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合について、書類を交わして説明をしている	入居時にホームの重度化や看取りの対応指針を基に、支援できることやできないことを説明しています。重度化した場合には医師の判断のもと家族に説明してもらい、本人や家族の思いを第一に考え話し合い方針を共有し、訪問看護師とも連携を図り支援に取り組んでいます。利用者の状況の変化に伴い家族に面会に多く来てもらい支援したり、利用者にとって良い選択として入院することもあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや事故発生時マニュアル等で研修を定期的に行っている		

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員が立会いのもと、年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題に取り上げて地域との連携に働きかけている	年に2回消防署の立ち会いの下昼夜を想定し、通報や水消火器による初期消火、利用者も一緒に避難誘導の訓練を行っています。また災害に備えては食料や水などの備蓄をしています。運営推進会議で訓練の実施について報告をしています。	地域との協力体制の構築に向けて、避難訓練の際に近隣の方に参加を呼び掛けるなどしてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心がけ、プライバシーが守られるように配慮したケアを行っている	接遇マナーやプライバシー保護、身体拘束等の研修で利用者を尊重した対応や言葉遣いについて学んでいます。丁寧な言葉遣いを心がけ、家族の目線に立ちどのような対応をして欲しいかを考えたり、職員の都合でのサービスになっていないかを振り返りながら日々の支援に取り組んでいます。トイレや脱衣所に内カーテンを付けたり、希望があれば同性介助にも対応し、プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の希望や意見を聞いたり思いを引き出せるような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご利用者のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や好きな服を選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように工夫している。準備や片付けなど、できることは行っている	食事委員が栄養バランスや好み、季節を考えながら献立を立て、利用者も一緒に買い物に行くこともあります。食卓で一緒に巻き寿司作りをしたりできることに携わってもらい、手作りおやつ、行事の際には行事委員が特別な献立を考え、食事を楽しんでもらえるように支援しています。時には弁当や寿司等の出前を取ったり、庭で食事やおやつを食べることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記載している。食事の間にプリンや牛乳など好みの飲み物を聞いて対応している		

ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応している。定期的トイレでの排泄を行い、排泄リズムを整えるようにしている	日々の記録から排泄のパターンを把握し、個々のリズムや仕草を観て日中は全員がトイレで排泄できるよう支援しています。利用者ごとの排泄用品や支援の方法は日々や業務ミーティングで話し合い、支援の結果布の下着に変わった方もおり、できるだけ自立に向かうよう取り組んでいます。医師の治療を受けたり個別ケアを行い排泄状況が改善した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品や乳製品などを取り入れている。運動や腹圧マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、個々にあった支援を行っている	入浴は日中に利用者に希望を聞きながら週に2回以上入れるように支援し、毎日の入浴も可能です。拒否される方もタイミングや日を変えながら無理のない入浴に繋げています。冬は脱衣所の室温に注意を払い、一人ずつ湯を入れ替え気持ちよく入ってもらい、重度の方も二人介助で湯船に浸かれるよう支援しています。ゆずや菖蒲湯などの季節湯も楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、状況に応じた支援を行っている。身体に負担のあるご入居者に関しては昼間の時間も設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局と連携を取りながら服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り役割を持っていただけるように家事などに参加している。レクリエーションなどを行う場合には、ご本人も一緒に手作りの物を作って頂いている		



ニチイケアセンター堀(りんどう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物などを支援している。また、会話の中でご本人から要望等があった場合には、ご家族に協力を仰ぐこともある	毎日利用者に希望を聞き近隣の神社等への散歩や買い物に出かけています。車いすの方も声をかけたり、庭に出て外気浴や食事を楽しむこともあります。地域の行事や季節ごとに初詣や桜の花見など、季節を感じてもらえるような外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。年賀状のやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整理整頓が常に出来ているように心がけている。空調温度もこまめに調節を行っている。毎月、季節にあった飾り付けをしている	フロア毎に利用者と一緒に壁絵やカレンダーを作成し掲示したり、時にはフラワーアレンジメントを飾り季節を感じられるようにしています。テーブルの配置は利用者同士の関係性を配慮し、その日の様子を観て変更することもあります。毎日利用者と一緒に掃除や換気を行い、加湿器や濡れタオルで湿度調整、室温管理に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る位置については、常に状況を考えながら変えたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人が馴染みのある家具や布団などを持ち込んで頂くようにしている	入居時に今まで使っていた馴染みのものを持ってきてもらうように伝え、ベッドや椅子、テレビ、タンスなどを家族と相談し過ごししやすいよう配置しています。生活習慣に合わせて布団を敷き休むことも可能です。以前に作成した刺繍などの作品や家族の写真などを飾ったり、趣味の歌の本などを持ってきている方もおり、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に名前を貼ったり、トイレもすぐに分かるように表示されている		